

環境に配慮したコスメパッケージ

Environmentally friendly cosmetic package

秋本美里

指導教員 谷上欣也

サレジオ工業高等専門学校 デザイン学科 プロダクトデザイン研究室

キーワード：パッケージ，環境，化粧品，プラスチック問題

1. 研究目的

SDGsの項目にも掲げられているように、豊かな海を守る為にはマイクロプラスチックの削減が求められている。中でも過剰包装や使い捨てプラスチックは廃プラスチックの大半を占めており、ペットボトルに比べるとリサイクル率も非常に低い。特に化粧品の容器等は分別が難しく中身の洗浄などの手間がかかる事や使い切らずに捨てる事が多い点に着目した。そこで、本研究では環境に配慮したコスメのパッケージの提案を研究の目的とする。

2. 調査内容

2.1 プラスチックごみの内訳

図1のグラフはゴミステーションに排出されたごみ組成分析中のプラスチック類の内訳と割合を表している。この図からごみとして捨てられたプラスチックのうち、6割が容器包装である事がわかる。逆にPETボトルは全体のおよそ2割程度であり、プラスチック製容器包装がごみとして排出される割合の方が高い事がわかる。[1]

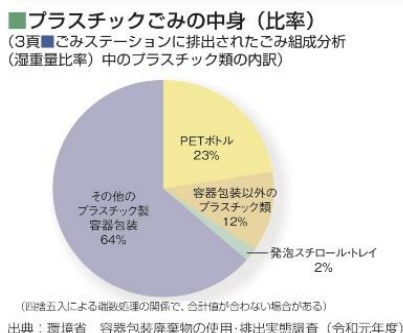


図1. プラスチックごみの中身

2.1 容器包装のリサイクル率

図2は公益財団法人日本容器包装リサイクル協会による2018年年度報告書「3R推進団体連絡会データより、事業者によるリサイクル率・回収率に関する実績をまとめたものである。注目したいのは、容器包装のリサイクル率。ペットボトルのリサイクル率が84.6%に対して、容器包装は45.4%と低い数値になっている。プラスチックごみの多くを占める容器包装を、減らしてリサイクル率を上げていく事が今後の大きな課題と言えるだろう。[2]

素材	指標	2020年度目標	2018年度実績	参考: 2017年度実績
ガラスびん	リサイクル率	70%以上	68.9%	(69.2%)
PETボトル	リサイクル率	85%以上	84.6%	(84.9%)
スチール缶	リサイクル率	90%以上	92.0%	(93.4%)
アルミ缶	リサイクル率	90%以上	93.6%	(92.5%)
プラスチック容器包装	リサイクル率(再資源化率)	46%以上	45.4%	(46.3%)
紙製容器包装	回収率	28%以上	27.0%	(24.5%)
飲料用紙容器	回収率	50%以上	42.5%	(43.4%)
段ボール	回収率	95%以上	96.1%	(96.1%)

図2. リサイクル率・回収率に関する2018年度実績

3. 現状調査

近年は、生物資源から作られた合成樹脂のバイオプラスチック、土中で分解する生分解性プラスチックやプラスチック以外の生分解性素材を代替として使う動きやリサイクルへの取組みが国内外で進んでいる。凸版印刷はプラスチック製の従来品に比べ、石油由来の原料を約75%減らせるというシャンプーやボディソープなどを入れる紙製容器を開発した。[3] また、仏高級ブランド大手のエルメスは詰め替え可能な容器を使った口紅を発売した。[4]

4. 現状分析

化粧品メーカーでも脱プラに関する取り組みは多く存在しており、新たにプラスチックに代わる素材を作ることは困難だが、既存の素材に工夫をしたり、中身の状態を変える事で新たなパッケージを考案することが可能だ。また、リユースに着目して何度も使える素材や捨て難いものを提案することも脱プラに繋がると考えた。化粧品は消耗品でありながら、色や質感など種類が豊富な為、使い切る前に新しく購入してしまったり見た目の可愛さやコレクション目的で購入する事もある為、リップなどは詰め替えるタイプに向いていないと推測した。

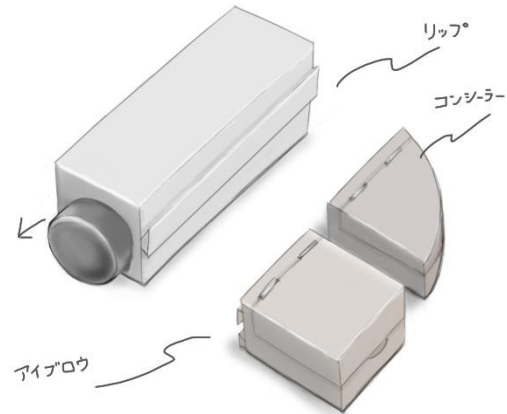


図4. 制作物アイデア

5. コンセプト 「ワンタッチ」

プラスチック問題は、リサイクルできずに海に流れてしまう事や、思っている以上にリサイクル率が低い事が大きな問題になっている。正しくリサイクルができる事や「使い捨て」を辞める事も解決策の1つであると考え。特に化粧品は分別が難しい事が大きな原因となる。そこで、コンセプトを「繰り返し使えて、分別しやすい」ものを提案する。

6. アイデア展開

本研究では、初心者向けにナチュラルメイク用の化粧品でコスメ3点（リップ・コンシーラー・アイブロウ）を展開した。気分でカラーを変える事が多いリップはケースから中身を取り外して交換できるもの。コンシーラーは固形またはクリームタイプのもの。アイブロウはパウダーを想定したパッケージになっている。これらは持ち歩きの際にパズルのように自由に組み合わせられる形になっており、素材は木材や金属などのプラスチック以外のものと考えている。また、SDGsの項目であるジェンダー平等の実現の観点から、男性も化粧をすることが増えている為、男女ともに使用できるようなカラーと装飾の少ないシンプルなデザインにした。サイズも持ち歩くことを想定して、手のひらに収まるコンパクトな仕様で考えている。(図4)

7. 今後の方向

現段階でできているアイデアから、分別のしやすい構造と長く使える素材という2つの点を課題として試作を行なって行きたいと考えている。さらに販売時のパッケージやポスター広告なども展開していく予定である。制作物以外では、引き続き調査やアンケートを行ない、使用頻度や使用量、価格などを確認する。また、使用感やコスメの中身のカラー展開など化粧品そのものの選別を今後の課題として考える。

参考文献

- [1] 環境省, 実態調査の概要
https://www.env.go.jp/recycle/yoki/c_2_research/research_R01.html
- [2] 公益財団法人, 日本容器包装リサイクル協会
<https://www.jcpra.or.jp>
- [3] 朝日新聞デジタル, 紙製容器開発
<https://www.asahi.com/articles/ASM2P446KM2PPLFA001.html>
- [4] 日本経済新聞, 持続可能な口紅
<https://www.nikkei.com/article/DGXMZ055288480V00C20A2000000/>